令和６年度　美祢市人権教育ふれあい講座・リーダー講座

共に学び！共に生きる！

～一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現に向けて～

【 第１講座を開催して 】

７月２３日（火）、美祢市民会館大ホールにおいて、令和６年度美祢市人権教育ふれあい講座（第１講座）を開催しました。

『子どもの問題』をテーマとして、やまぐち総合教育支援センター　SSW　弦田　八重子（つるたやえこ）氏から、「子どもたちの現状と効果的な支援について～子どもや家庭の困りごとと私たちのできること～」と題して、御講演いただきました。

御講演では、現在の家庭や子どもを取り巻く環境について、実例を挙げながら丁寧に解説していただき、学校や行政が行える支援や、一人の地域住民としてできることを考えるきっかけとなりました。また、苦しい状況にある子どもたちは、『深刻なことほど、ばれたくないと思っている』という、当たり前だけれど見落としがちな視点を改めて実感することができました。

【受講者の主な感想】

・核家族が増えている。昔のように祖父・祖母をたよることはないようだ。行政にも限界がある、税金がたくさん集まる地域ならよいが。

・あらためて人権の大切さを知ることができた。家庭の問題が学校ともつながっている現状を知ることができた。

・「アドボカシー」という言葉自体は聞いたことがあったが、「子どもアドボカシー」という捉え方をしていなかったので、勉強になった。子どもの最善の利益を考える上で、子どもの思いだけ、大人の思いだけに偏らず考えるということはとても大切だと思った。そのためには、この視点の話を大人だけでなく、子どもも一緒に聞いて議論ができると良いと思った。また、やさしく、じっくり、丁寧に話を聞くということについて、大人が保護者として、地域の人間として、教職員として、カウンセリングマインドを身に付けること、と同時に、優しくできる心の余裕、じっくり丁寧にできる時間の余裕を持たなければならないと感じた。そのために、職場の理解や仕事のあり方など、子どものために、社会が変わらないといけないと思った。

・弦田先生がご紹介していた川村隆彦先生の「本当の専門性とは、病気や障害を通して人を判断するのではなく、１人の人間として見つめることができる力である。」が心に残った。知識や

経験則だけで人を判断することなく、一人ひとりを尊重する姿勢を忘れずに学校現場に限らず人との温かいコミュニケーションを大切にしたい。昨今、性格診断やLGBTQなどの分類・区別が多く目に付くが、目の前の人間と深く向き合うことを意識したい。

- こどもの問題の講演は何回か参加したことがありますが、年々色々な問題があったり、その問題自体を知らないと、関わっていくことも難しいなと感じました。今後は今よりも関心を持って、アンテナを張って、見逃さないようにしていきたい。
- 子どもに関わるときは、大人目線や考え方を中心にするのではなく、子どもの気持ちや人権を大切にしたかかわりをする必要があるとよくわかった。一緒に考えて安心感を持てるように心がけていきたい。日頃子どもたちと関わる仕事なので、身体に変化がないか、気になることはないか、子どもが気になる発言をしていないか、子どもたちの言葉や様子により気を配っていきたい。
- 困っている人ほど、本音を隠すので、分かりにくかったりして助けてあげる事が難しいなど様々な実例を話してくださり、大変ためになりました。
- 困った人と捉えず、困っている人として関わることが大切である。今関わっている児童の保護者と関わる時にとても心痛しているが、いつかはと思って頑張ろうと思った。また、今後見えない子供の悩みにいち早く気づけるようによく見ていきたいと思った。
- 今回の講座の感想として、ネグレクトの部分に興味を持った。ネグレクトは保護者としての監視を著しく怠ることというのは理解していたが、知識不足で子供に愛情を与えすぎて、それが虐待の一部になってしまうのは初めて聞いた。今後は、そのような点も踏まえて子どもの問題について考えていきたいと感じた。
- 教員、そして子育てをしているので、心が痛くなる部分もありましたが、子供たちのために、どんなことができるのか、どんなことをしていかないといけないのかを考えるきっかけができました。
- ネグレクトは「子どもの命がどうか」そこの認識が変わったのはとても大きかったです。
- 子どもの問題には、様々な機関からアプローチすることが大切だとわかりました。また、子どもから聞き出すための優しい眼差しが必要だと感じました。
- 子どもの持つ困難さは家庭にあること、見つけること気づくことの難しさ、支援の難しさを泣いている赤ちゃんの気持ちを察するようにと言われたが、理解したいと思った。
- 子どもたちの問題が深刻であるほど相談が難しいことを改めて実感し、さらにアンテナを高くして小さなサインに気付けるようにするとともに、子どもたちの心に寄り添い、関係者との連携を図っていきたいと思いました。ありがとうございました。